

1. 略歴

- 1987年4月 東京大学教養学部文科三類入学
1989年4月 東京大学文学部第一類（哲学専修課程）進学
1992年3月 東京大学文学部第一類（哲学専修課程）卒業
1992年4月 東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻修士課程入学
1994年3月 東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻修士課程修了
1994年4月 東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士課程進学
1996年3月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻哲学専門分野博士課程退学
1996年4月 四国学院大学文学部人文学科 専任講師
1999年4月 四国学院大学文学部 助教授（～2007年3月）
2003年8月 トロント大学哲学部[Department of Philosophy, University of Toronto]訪問教授[Visiting Professor]
（～2004年7月）
2007年4月 四国学院大学文学部 准教授
2010年4月 四国学院大学文学部 教授
2014年4月 東京女子大学現代教養学部人文学科哲学専攻 教授（～2019年3月）
2017年4月 東京女子大学比較文化研究所副所長、兼丸山眞男記念比較思想研究センター副所長
（～2019年3月）
2019年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 共著

- 秋富克哉・安部浩・古荘真敬・森一郎編『続・ハイデガー読本』、法政大学出版局、2016年5月（担当箇所：31「テイラー、ローティ、ブランダム 点と線、鏡、そして理由の空間へ」 pp.296-304）
神崎繁・熊野純彦・鈴木泉編『西洋哲学史IV 「哲学の現代」への回り道』、講談社、2012年（担当箇所：1「オッカムからヒュームへ」 pp.35-111）
松永澄夫・高橋克也編『叢書 哲学への誘い 第3巻 社会の中の哲学』、東信堂、2010年（担当箇所：第4章「知識基盤社会の構築における哲学の役割」 pp.168-207）

(2) 学術論文

- 「パース 記号と現象 —経験論から形而上学へ—」、池田喬、合田正人、志野好伸共編『異境の現象学 <現象学の異境的展開>の軌跡 2015-2017』、明治大学〈現象学の異境的展開〉プロジェクト発行、2018年3月、pp.3-20
「イノベーションの科学へ向けて —人工物の存在論とアブダクション—」、日本感性工学会論文誌、Vol. 14 No. 3 特集「ファッションと設計」、2016年9月、pp.581-587
「リスク「0」と確率「1」のあいだ —ヒューリスティクス、最小合理性、具体的合理性—」、哲学会編『哲学雑誌 情報とリスク —ポスト3.11の哲学—』第128巻第800号、有斐閣、2013年10月、pp.106-127
「事物の枯死しない根 —ノミナリズムとリアリズムの〈あわい〉—」、『別冊 水声通信 坂部恵 —精神史の水脈を汲む—』、水声社、2011年6月、pp.85-100
「日常的感性のゆらぎ —あいまいな対象によってもたらされるもの—」、日本感性工学会感性哲学部会編『感性哲学9』、東信堂、2009年9月、pp.39-57
「世界の不確定性について」、四国学院大学文化学会『論集』第129号、2009年7月、pp.33-51
「世界はなぜ、このように存在しているのか —不確定性の形而上学—」、講談社選書出版部編『別冊「本」 RATIO 03』、講談社、2007年5月、pp.428-470
「根拠なく受け入れねばならない事実について」、哲学会編『哲学雑誌 レヴィナス —ヘブライズムとヘレニズム—』第121巻第793号、有斐閣、2006年9月、pp.139-159
「日本型パブリックドメインの創出 —公共圏の再構築と多様性の擁護を目指して—」、pp.II 7-II 10;『科学新聞』第3107号、2006年8月、第6面

- 「行為における情報と人格の生成 —科学的探求における価値の問題—」、四国学院大学文化学会『論集』第119号、2006年3月、pp. 93-109
- 「記号・生命・習慣」、日本記号学会編『記号学研究22 メディア・生命・文化』、東海大学出版会、2002年3月、pp. 93-107
- 「記号の不確定性について」、四国学院大学文化学会『論集』第98号、1998年12月、pp. 59-72
- 「<わたし>をめぐる記号過程」、四国学院大学文化学会『論集』第94号、1997年7月、pp. 61-76
- 「記号過程において我々が獲得するもの」、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室『論集』第14号、1996年3月、pp. 60-72
- 「パースの『存在の諸様相』について」、日本哲学会編『哲學』第46号、法政大学出版局、1995年10月、pp. 160-170
- 「パースの実在論と習慣形成の理論 —帰納的推論と自己制御—」、『論集』第13号、東京大学文学部哲学研究室、1995年3月、pp. 121-133

(3) 翻訳

ラッセル・B・グッドマン『ウィトゲンシュタインとウィリアム・ジェイムズ —プラグマティズムの水脈—』、嘉指信雄、岡本由起子、大塚諒、乗立雄輝（共訳）、岩波書店、2017年8月

(4) 書評

松尾友矩・竹村牧男・稲垣論編『エコ・フィロソフィ入門 —サステイナブルな知と行為の創出—』（ノンブル社、2010年）、日本感性工学会感性哲学部会編『感性哲学 10』、東信堂、2010年9月、pp. 190-192

伊藤邦武『ジェイムズの多元的宇宙論』（岩波書店、2009年）、日本科学哲学会、『科学哲学』42-2号、2009年12月、pp. 98-102

伊藤邦武『パースの宇宙論』（岩波書店、2007年）、日本科学哲学会、『科学哲学』40-2号、2007年12月、pp. 109-113

(5) コラム等（主なもの）

「ウィリアムからヘンリーへの手紙」、『比較文化』第64号、東京女子大学比較文化研究所発行、2018年3月、pp. 1-2

(6) 口頭発表

「起源を問う思考をめぐる」、ワークショップ「因果、規範、そして自由」、武蔵野大学有明キャンパス、2018年12月22日

「パース 記号と現象 —経験論から形而上学へ—」、明治大学人文科学研究センター総合研究「現象学の異境的展開」、シンポジウム「もう一つの現象学へ —パース、ルヌヴィエ、バシュラール—」提題、明治大学中野キャンパス、2016年10月23日

「イノベーションの科学へ向けて —人工物の存在論とアブダクション—」、日本感性工学会第18回大会における企画セッション「ファッションと設計」における招待講演、日本女子大学、2016年9月10日

「アブダクションと感性 —アブダクションと物語を触発する「もの」作り—」、日本感性工学会第17回大会における特別セッション「仮説形成(Abduction)を考える」における招待講演、文化学園大学、2015年9月2日

「人間を自由にする学としてのリベラル・アーツ」、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」第2回文理融合シンポジウム「問いを立てる —女子大におけるリベラル・アーツを考える—」における提題、東京女子大学、2014年5月19日

「リスク「0」と確率「1」のあいだ —ヒューリスティクス、最小合理性、具体的合理性—」、哲学会第51回研究発表大会、シンポジウム「情報とリスクの哲学」における提題、東京大学文学部、2012年11月4日

「<観念>から<記号>へ」、日本記号学会第32回大会、神戸ファッション美術館、2012年5月13日

「プラクティスを通じて生成する感性」、第6回日本感性工学会春季大会、九州大学工学部、2011年3月4日

「「もう一つの形而上学」は可能か?」、日本ホワイトヘッド・プロセス学会 第32回全国大会、徳島文理大学、2010年9月19日

「事物の枯死しない根 —リアリズムとノミナリズムの〈あわい〉—」、東京大学 COE「共生のための国際哲学教育センター」特別シンポジウム「坂部恵の銀河系 —世界の中の坂部哲学—」における提題、東京大学教養学部、2010年7月20日

「日常的感性のゆらぎ —あいまいな対象のもたらすもの—」、第10回日本感性工学会感性哲学部会、宝塚造形芸術大学：大阪梅田キャンパス、2009年3月26日

「世界の不確定性について」、哲学会第46回研究発表大会、東京大学文学部、2008年10月25日

「ユビキタス時代の環境管理型社会における QOL」、日本感性工学会中四国・九州支部第2回研究発表大会、香川大学工学部、2008年2月16日

パネルディスカッション「イノベーションと知識社会」における提題、国際フォーラム「イノベーションとその取り組みをめぐる国際動向」、主催：内閣府経済社会総合研究所、共催：文部科学省科学技術政策研究所、知的財産戦略本部事務局、財団法人政策科学研究所、虎ノ門パストラルホテル、2007年3月13日

パネルディスカッション「知識社会ムーブメントをどう起こすか」、特別シンポジウム「知識社会とは何か？—25年後の日本、あなたはどう創りますか—」における提題、主催：(株)科学新聞社、(財)新技術振興渡辺記念会、(財)未来工学研究所、共催：日本学術会議、内閣府経済社会総合研究所、文部科学省科学技術政策研究所、日本学術会議講堂、2006年7月28日

「日本型パブリックドメインの創出—公共圏の再構築と多様性の擁護を目指して—」、上記における受賞講演、主催・共催同上、2006年7月28日

「メディアにおける〈タイプ/トークン〉の形而上学—「ここ、いま」のタイプ化とその逸脱—」、日本記号学会第26回研究発表大会、東京大学教養学部、2006年5月14日

「記号・生命・習慣」、日本記号学会第21回研究発表大会、大垣市情報工房、2001年6月3日

「記号の不確定性について」、哲学会第36回研究発表大会、東京大学文学部、1997年11月2日

(7) 受賞

2006年、懸賞論文「知識社会とは何か？」最優秀賞（受賞作「日本型パブリックドメインの創出—公共圏の再構築と多様性の擁護を目指して—」）、主催：(株)科学新聞社、(財)新技術振興渡辺記念会、(財)未来工学研究所、共催：日本学術会議、内閣府経済社会総合研究所、文部科学省科学技術政策研究所

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

愛媛県立看護専門学校（1998年4月～2008年3月）

聖心女子大学文学部（2017年4月～現在）

東京大学教養学部（2017年9月～2019年1月）

東京女子大学現代教養学部（2019年4月～現在）

(2) 所属学会

哲学会：理事（2019年4月～現在）

日本記号学会

日本哲学会

日本科学哲学会

Charles Sanders Peirce Society

ハイデガー・フォーラム（創設賛同人）

日本ホワイトヘッド・プロセス学会

日本感性工学会：理事・感性哲学部会会長（2014年～2018年7月）、評議員（2018年7月～現在）

アメリカ哲学フォーラム 企画・運営委員（2014年～現在）